

日枝神社例大祭

日枝神社例大祭が、10月15日に行われました。例大祭は、毎年10月の日曜日に行っていますが、正式には10月15日と定められていて、今年は平成18年以来の当たり日(10月15日)の祭典となりました。当日は、小雨の舞うあいにくの空模様となりましたが、それでも多くの方に来ていただき、もちまきや大抽選会など、例年と変わらぬ賑わいを見せました。



もちまき



恒例の大抽選会



泉明寺宮司の

日枝神社のお話

函南町柏谷1番地。これが日枝神社の住所、つまり鎮座地です。柏谷区内には太古の暮らしを伝える国定「柏谷横穴古墳群」がありますが、神社付近から平井原方面に向けては縄文式土器、弥生式土器、住居跡などが散在する地域となっています。柏谷を中心として、かなりの規模の大集落が構成されていた事が推察されます。人が生活を落ち着かせ、集落(ムラ)を作る時には必ずその要に祭祀の場がありました。ですから柏谷のムラづくりは日枝神社から始まったと考えることができます。さて、日枝神社の歴史は古く、「延喜式(927年)」「三代実録(901年)」に記されている卜部宿禰平麻呂(うらべのすくねひらまろ)がこの地に住み、日枝神社に参籠して亀卜(きぼく)を行ったと伝えられています。亀卜とは、亀の甲羅を焼いて行う占いの事です。社殿の改築も度々行われたと考えられますが、棟札としては寛永18年12月(1641年)のものが保存されています。御祭神は大山咋命(おおやまくいのみこと)。名前の「くい」は杭の事で、大山に杭を打つ神、すなわち大きな山の所有者の神を意味し、山の地主神であり、農耕、治水を司る神とされています。ここで一つ、大山咋命に関するロマンスを古事記・日本書紀から一部分ご紹介しましょう。大山咋命が山へ狩りに出かけた時のこと。獲物に向けて放ったはずの矢がはずれ、小川に落ちて流れて行ってしまいました。その矢を下流で拾ったのが縦玉依比売



命(たてたまよりひめのみこと)。それはそれは美しく立派な丹塗りの矢だったので、寝所に飾っていつも眺めていました。実はこれは大山咋命が矢に化身していたからでして…。古事記・日本書紀の神代の時代はファンタジックに書かれていますから、読み手も想像力を働かせる事が必要です。ということで、この神話にあやかり、縁結びの神としても崇められています。夫婦和合、安産、商売繁盛、家内安全、などのご利益があります。日枝神社社殿内に入っていた



社殿内の「桃を持った猿」

きますと、正面に木彫りの桃を持った猿がみられますが、猿は大山咋命の使いであり、「まさる」と呼ばれて信仰されています。桃は不老長寿のシンボルで邪気を払う力があるとされています。他の神社の多くは、猿ではなく、龍や獺、像、獅子などが施されています。因みに、象と獺は非常に似ているのですが、一説によりますと獺の方が鼻が短く、耳も小さく、体毛がカールしているそうです。こんな視点からも神社参拝をお楽しみいただければ、と思っております。



〔日枝神社宮司 泉明寺みずほ〕

蔵島神社30年祭

平成30年3月11日(日)挙行

30年ごとに行われている蔵島神社中祭(30年祭)が、平成30年3月11日(日)に挙行されます。

蔵島神社30年祭実行委員会では、会合を重ねて中祭の準備をしてきました。これまでの検討の結果、毎年行っている神事に加え、次のような催し物を行う予定です。

- 一 稚児舞(ちごまい)
- 二 タイムカプセルの開封
- 三 しやぎり競演
- 四 もちまき

その他に、各種団体による飲食やゲームなどの出店も行う予定です。地区民の皆様! 来年の3月11日、蔵島神社30年祭をお楽しみに!



稚児舞 (今宮神社)

なお、30年祭と同時に行う予定でした函南町役場主催の「百穴祭り(仮称)」は、開催時期等の関係から、今回は開催しないことになりました。



柏谷しやぎりの歴史と現在

柏谷しやぎり保存会 会長 佐口将人



平成29年度日枝神社例大祭にて

動として、神社祭典等で演じられていたようです。しかし、昭和11年、不慮の火災のため柏谷会館が全焼し、会館に保管してあったしやぎりの道具一式が焼失してしまいました。以後、戦争という当時の世相と相まって、約半世紀の長きにわたり断絶状態となってしまうたそうです。

転機が訪れたのは、断絶してから48年後の昭和58年のことでした。日枝神社の祭典に間宮しやぎり保存会の方々を招いて、お祭りを盛り上げてもらったそうです。それは素晴らしい演奏だったと聞いています。柏谷に、またしやぎりを復活させたいという熱い思いが皆の心に湧き上がり、ついに昭和59年、柏谷区組長会にてしやぎりの復活が決議されたそうです。楽器は、区民の方々の寄付金により購入されたものです。今でも当時の「しやぎり復活」までの記録が残されています。

「しやぎり」の歴史は古く、発祥は遠く16世紀の戦国時代の頃まで遡るといわれています。三島を中心とした伊豆地方の伝統芸能のひとつである「しやぎり」については、三島宮(三島大社)に伝わる古文書にも、その記録が残されているそうです。

柏谷のしやぎりは、大正から昭和のはじめころまでは、当時の青年団の活

ことでなんとか踏ん張ることを考えていました。

そして平成28年、柏谷区のお力添えにより、再度回覧により募集をかけて頂きました。回覧が功を奏したのか、当時のしやぎり保存会の現状を知っていただいたうえで、柏谷子供会のしやぎり部の部長さんから打診がありました。その時の部長さんから、「しやぎり保存会はなくなってしまうんですか? 子供しやぎりは続けていけるんですか? それなら私達にしやぎりを教えてください、子供達にしやぎりを一緒に教えていきましよう!」と5名の参加者を紹介してもらいました。柏谷しやぎり再生の兆しが見えてきました。

7月の八坂神社(お天王さん)祭典では、人数は増えたものの、演奏は初めて。お涼みの時は、柏谷区の役員の方にも手伝っていただき、何とかお涼み期間を盛り上げることができました。八坂神社祭典を終え、定期的に練習をしていきたいということで、区長に相談し、柏谷区コミュニティ会館で練習させていただけることとなりました。毎週木曜日の夜、近隣の方々にはご迷惑をおかけしますが、今でも皆で熱心に練習を続けさせていただいております。

9月には、平井の天地神社祭典にて、天地睦会とのしやぎり交流がありました。睦会さんとも、親しく和やかに交流する良い雰囲気もできてきました。平成28年10月、この日のために少々練習回数を増やして臨んだ日枝神社例大祭。粗削りな演奏ではありましたが、新たなメンバーも増え、祭では、十分



コミュニティ会館での練習風景

現在、柏谷しやぎり保存会では、毎週木曜日、柏谷区コミュニティ会館で午後7時半から練習を続けています。ちよつと演奏してみようかなと興味を持った方は、立ち寄ってみてください。